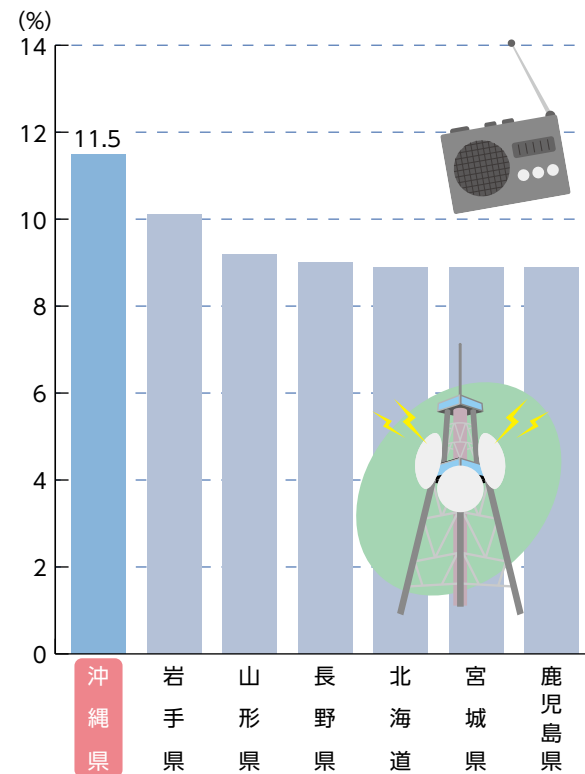


● ラジオ聴取率 (2013年10月)



11.5%

沖縄では普段から、自宅、職場、車などの日常でラジオを聞いている人が多いと感じないだろうか。

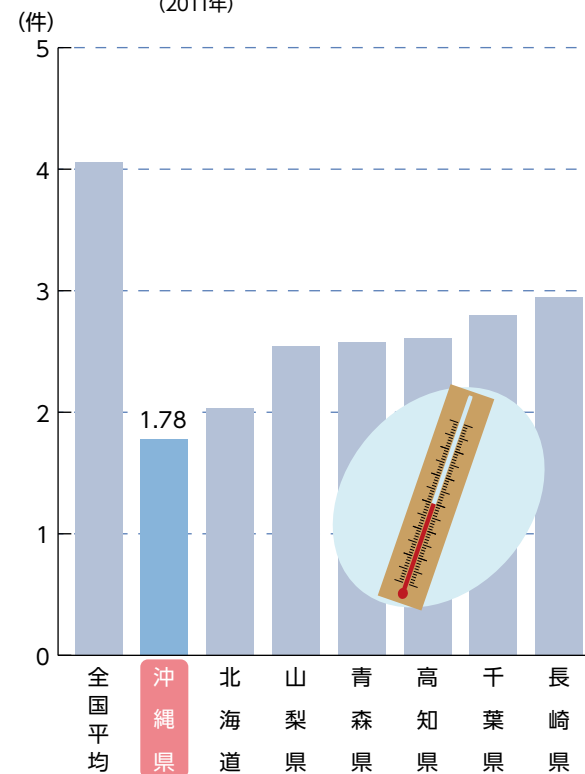
株式会社ビデオリサーチ「全国ローカルラジオ聴取状況調査」によると、沖縄の聴取率は11.5%となっている。これは全国一高い水準で、上位他地域と比べても高率だ。沖縄は日本で最もラジオを聴く習慣がある地域のようなのだ。

もっともラジオを聴いている世代は、35～49歳の男性となっている。時間帯では平日の7時台がもっとも高く、朝の通勤時間帯に聴く機会が多いようだ。沖縄県以外では、鹿児島県や東北などの聴取率が高く、地方圏では、情報入手手段としてラジオが活用されているようだ。

車社会の沖縄。平日の忙しい朝もラジオを聴きながらリラックスしていきたい。耳はラジオに傾けつつも安全運転といきましょう。

(海邦総研・高良祐也)

● 沖縄の高齢者 1万人あたりCPA件数 (2011年)



1.78件

高齢者では暑さ、寒さに対する感覚が鈍くなり、身体の反応も弱くなっているといわれる。

気候変動の進行により、体調の管理にはこれまで以上に気をつけたいが、そのためには住宅室内における温度管理も重要だろう。

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター「わが国における入浴中心肺停止状態(CPA)発生の実態」によると、入浴中に心肺の停止(CPA)状態におちいった高齢者の件数は1.78件と全国一少ない。一年中温暖な気候の沖縄は、浴室や部屋間の温度差が小さいためと考えられるが、一方で年間平均気温が10度未満の北海道が2番目に少ないことは興味深い。

他の調査結果によれば、冬場でも北海道は住宅室内温度が沖縄とほぼ同じ20度超はあるという。

省エネに配慮しつつも、冷暖機器等で適切な温度管理への意識を持ち続けたい。

(海邦総研・比嘉明彦)

● 葉たばこの販売重量 (2003年・1kmあたり)

順位	都道府県	販売重量 (kg)
1位	沖縄県	773.9
2位	熊本県	411.9
3位	長崎県	360.2
4位	青森県	277.1
5位	佐賀県	229.9
6位	宮崎県	220.8
7位	岩手県	160.1
8位	鹿児島県	126.6
全国		52.5

773.9kg

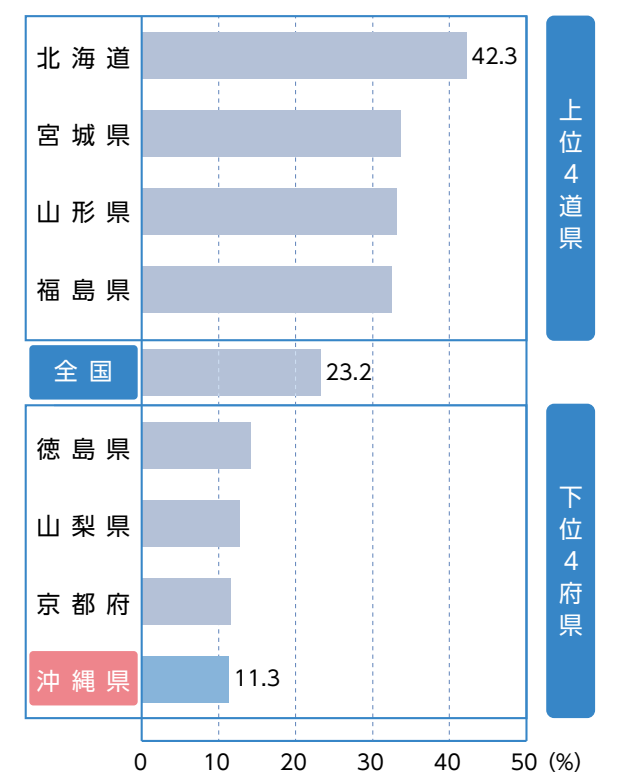
地域限定で販売されているたばこは全国で7銘柄あるが、そのうち2銘柄が沖縄県限定である。米軍占領下から販売されていたたばこが今でも引き継がれていることから、沖縄のみ独自の銘柄を2種類も持ち続けることとなった。

全国たばこ耕作組合「府県別の販売実績」によると、沖縄の葉たばこ販売重量は1762トンと全国で4位。都道府県面積1kmあたりで算出すると、全国1位の量となっている。ちなみに、沖縄県が公表する市町村別葉たばこ収穫量をみると、2012年の葉たばこ収穫量は全体の6割強が宮古島市、2割強が伊江村となっている。

ただし、2004年には県内たばこ工場の8カ所が閉鎖され、販売重量は5年前に比べおよそ16%も減少している。市場の縮小はみられるが、沖縄経済を支えるひとつの農作物という観点では、一定の生産を維持してほしいものだ。

(海邦総研・宮平杏奈)

● 宿泊施設の県内客利用割合 (2013年)



11.3%

県内で相次いでいる新規ホテルの開業。身近な場所にもホテルが増えているが、多くが観光向けということもあり、県民による利用は少ないようだ。

観光庁「宿泊旅行統計調査」から県内宿泊施設利用者数の内訳をみると、県民による利用はわずか11.3%。これは全国最下位の水準で、県内宿泊の多くが県外客や海外客による利用という状況のようだ。これは、沖縄県民があまり宿泊をしないというよりも、押し寄せる観光客が県民人口に対して多すぎるというというのが大きな要因ではないだろうか。

沖縄は面積が小さいため、行楽時の宿泊ニーズは低いと考えられる。しかし、趣向を凝らしたホテルでの宿泊は、県民にとっても魅力的なもの。リーズナブルな県民向けプランも増えているので、ここはひとつ泊まりがけでの旅行を計画されてみてはどうだろうか。(海邦総研・瀬川孫秀)